

浜松市生活支援体制づくり協議体（第2層、和合圏域） 第4回会議 議事録

開催日時	令和3年2月22日（月）9時30分から11時まで
参加者	委員：15人 事務局：1人 その他：13人（高齢者福祉課1人、中区長寿保険課2人、富塚協働センター1人、介護保険事業所3人、地域包括支援センター和合5人、市社協1人）
場 所	和合せいれいの里 研修センター
内 容	<p>1. 開会</p> <p>2. 挨拶 協議体会長</p> <p>3. 協議内容</p> <p>■コロナ禍における高齢者の現状について</p> <p>①高齢者福祉課より コロナ禍における高齢者への影響について（資料参照）</p> <p>②地域包括支援センター和合より コロナ禍における地域からの相談等についての報告（資料参照）</p> <p>③住吉・和合地区民児協より 友愛訪問⇒65歳以上の一人暮らし、高齢者世帯へ月1回又は2ヶ月に1回訪問し安否確認。 昨年3月からコロナにより訪問方法を検討し電話等で対応、11月以降少しづつ訪問再開。 家庭内での変化（問題点）が見られた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家庭内にやたらごみが増えた。 2. 外出や人との会話も減った。→体調の変化や病を感じる。相談できない。 3. 家庭環境の変化 <ol style="list-style-type: none"> ①夫婦どちらかが体調不良により入所又は死亡した。 雨戸等開いてない、近隣や民生委員も知らない。→空き家になっている。 ②空き家だけど住所含めてどうなっているか知る必要がある。 ③ケアマネが関わっていた。ケアマネとの連携を構築する（行政へ依頼済） ④孤独死（60～65歳）が増えている。民生委員の対象年齢外。 <p>4月から高齢者実態調査が始まるが、訪問の仕方を検討しながら進めていく。</p> <p>④富塚地区民児協より 今年も1月22日～月末にかけて歳末友愛訪問実施。（31世帯） H28年度からコミュニティスクールを実施。学校と連携し中学生21名同行。 80歳以上独居（男67人、女239人）、85歳以上高齢者世帯(41世帯)が対象。 核家族が進み、人口は減って世帯が増えている。</p>

民生委員、地区社協、中学生で訪問。

日常の困りごとは、1 買い物、2 医療（通院含む）、3 ゴミ出し。←免許返納による
独居高齢者で身寄りがない場合、緊急時の連絡先を民生委員にする方が多い。

困りごとに対しての生活支援を地域限定（スポット式）で行っていくことが大事。

■官民協働について

①社会福祉法人、NPO 法人の役割（市社協）

資料説明

今は、行政＋企業＋民間非営利組織

②NPO 法人ウェルネスサポートより経過報告（資料参照）

仮称；アウトリーチケア浜松プロジェクト

■意見交換、質疑応答

副会長より

3 年前から協議体会議に参加。高齢者の支援体制を行政も含めてどうするか検討してきた。

要支援者はどんどん増えていく。

それを支援する側（民生委員や地区社協など）も高齢化していく。行政は、民生委員選任を自治会に任せている。→市で公募してほしい。

60 歳定年の時代ならなり手もいるが、今 70 歳まで働く時代。

年金も 65 歳から受給。

ボランティアに関わることをお願いしていくことは至難の業。

行政は、ボランティアの皆さんが動きやすくなる体制づくりをしなくてははいけないと思う。

自治会も民児協も地区社協も行政寄りで限界がある。

民間が地域支援活動に参入してきた。力を借りて必要な方へ支援していく。

協議体として民間の活動を支援していくことが大きなステップとなる。

主旨を持った法人を応援していくことによって少し先が見えてきたように感じる。

事業所より

認知症カフェで無料相談所を開設している。相談から予防まで行う。

「コロナ禍で半年位相談ができなかった」「相談する所がわからない」等の声あり。

日に 1 人相談あり、必要な所へつなげる。（民生委員や包括、事業所など）

専門的などところで手伝っていく姿勢を持っている。

活動の基本と責任は、民間だけとか社会貢献的なボランティアで片付けられない。

富塚がモデル地区となって、官民協働が進められていくことを期待する。

地域の法人を支えていただけると嬉しい。

	<p>4. 来年度計画について 年間4回開催予定 了承</p> <p>5. 次回開催日程について 了承 令和3年6月28日(月)9:30～ 和合せいれいの里 研修センター *事前打合せ; 5月24日(月)9:30～和合せいれいの里 研修センター</p> <p>6. 閉会 生活支援体制づくり協議体 副会長</p>
<p>今後の 見通し等</p>	<p>和合圏域内は法人事業所が多いことから、官民協働を進めるための内容を協議体会議で深めていきたい。</p>